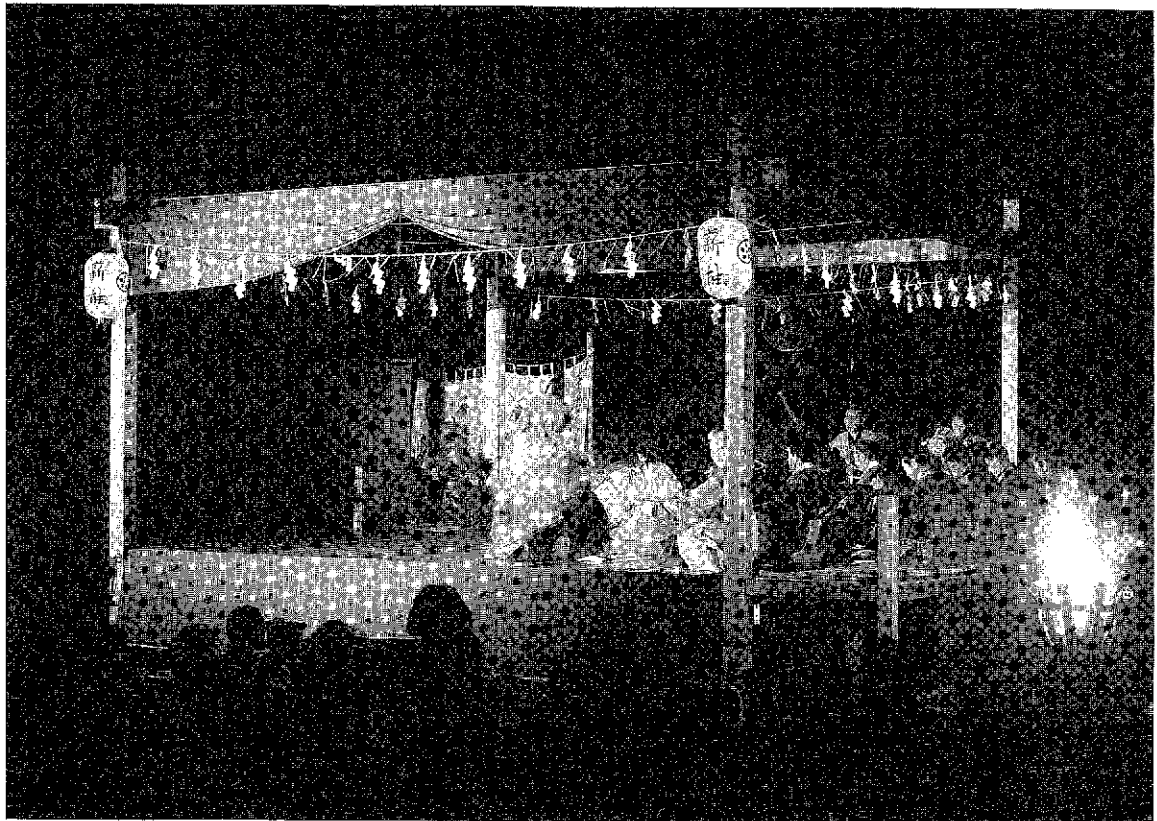


新潟県

平成4年

# 公民館月報

11月  
第477号



## 大須戸能

夕陽も暮れんとする時

篝火に火は灯され

提灯に「薪能」とあざやか

幽玄の盃蘭盆

自然と神の融和した空間

今年で六回目を迎えた薪能。  
毎年八月十五日、朝日村みどりの里で演能され、今回も約五百人の観客を魅了しました。  
今秋はアメリカ公演という大舞台も待っています。

(写真と解説朝日村公民館提供)

# 第15回全国公民館研究会開催

## 変わるライフスタイルへの対応を考える

### 宮崎市民会館を主会場に

十月八日(木)九日(金)の二日間にわたり宮崎市民会館を主会場に、第十五回全国公民館研究会が開催された。

フェニックスの並木、そてつ龍舌蘭の植込みなどに南国の情

緒あふれた宮崎市に参加した二千八百人による大研究会であった。

研究テーマは「生涯学習の推進と地域づくりのために、公民館の役割を考えよう」で、第一

日は十二の分科会に分かれ、それぞれ二人の基調発表と研究討議、第二日は全体集会以の開会式セレモニーと、NHK解説委員村田幸子氏の「高齢者の心に光と生きがいを求め」と題する記念講演があった。

機能していたのか、その取り扱いに一考を要するのように感じられた次第である。

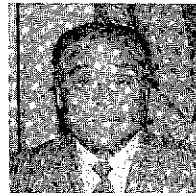
もう一つの特色は「自治公民館」への思い入れが熱かったことである。大会資料に「宮崎県の自治公民館」と題する解説記事の掲載や、宮崎県内からの参加者の過半数が自治公民館の関係者であったことは、新潟県ではあまり見られない点である。また、これら自治公民館長等が



今研究会の特色として二つのこと指摘できるであろう。その一つは「生涯学習と公民館」の分科会への人氣が依然として高かったことである。この分科会だけで、千二百人というマンモス部会になっていった点である。果たして分科会として

に及ぶ参加者による大分科会(?)なのにはまず驚いた。基調発表はご当地宮崎県都市と鳥取県淀江町の公民館の生涯学習推進についてであった。その推進体制、とりわけ公民館の体制に、当方とあまりの格差があることに驚かされた。そこで、ここでは公民館体制に絞って印象を記す。

郡城市では、平成元年10月に「ウエルネス(元気都市)宣言」して以来、公民館を生涯学習推進の拠点に位置付け、11の地区公民館と169の自治公民館とが活



第12分科会「生涯学習と公民館」の部会  
は千二百人

## 生涯学習の推進体制

栄町公民館長 楠 利雄

### 第12分科会印象記

単に参加しているだけでなく、積極的に発言している姿勢や熱心な研究的態度に学ぶべき点が多かったことを感じた。

総じて、変化の激しい現在の日本の社会にあって、その変わるライフスタイルに応じた公民館の在り方をみんな考えようという姿勢の明らかかな研究会であったように思う。

生涯学習推進のために「生涯学習推進員」を設置しているという点であるが、年間六千円の謝礼で地域住民と公民館とのパイプ役を依頼しているという。発表の中で、「公民館が生涯学習の拠点として、住民から信頼されるには、職員が誇りと自信をもって活動できる職員体制の整備が急務である。」と指摘していたが同感である。

ともあれ、毎年こうした大会に職員の整備充実が叫ばれながら改善が見られない。むしろ、ますます格差は大きくなっていくように思うのは私だけだろうか。生涯学習とは、自主的なものであり、義務的な性質は持たないという。したがって、「推進するも自由、しないも自由」その間に格差だけは加速度的に増大していく。それでいいのだろうかという疑問ばかりが大きくなった分科会の印象であった。

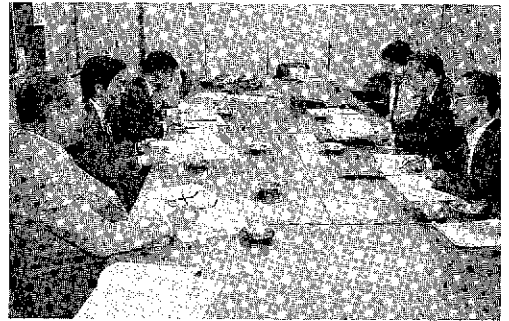
これは単なるイベントのみに対する補助金に過ぎない。このような都市公民館の大型予算は私どものような小規模公民館にとっては夢のまた夢である。

淀江町の公民館は人口9千2百人余、教育費10億円のうち公民館費は4千3百万円。町内には中央公民館と3地区館があり館長はいずれも非常勤の嘱託。年中無休で住民サービスに務めている。

# 第二回編集委員会開催

十月十三日、新潟市中央公民館会議室で、本会の第二回編集委員会が開催された。その内容は、本紙「公民館月報」の特集記事の編集についてであった。年度の前半では、実践記録シリーズとして、公立公民館の実践記録とともに、地域に密着した分館や集落公民館(自治公民館)の活性化に向けての事例を紹介してきた。この方向は今後も堅持しながら、「暮らしの中の

生活課題」をより一層浮き掘りにした公民館事業の紹介に取り組むことにした。例えば、「環境問題と公民館」「高齢者福祉と公民館の関わり」「過疎地の活性化と公民館」「暮らしの中の芸術・文化振興と公民館」など身の回りの生活の課題と公民館との関わりについての実践事例の紹介にも力を入れることが話しあわれた。



# 辛口

私が学校教育から社会教育のお手伝いをするようになったのは昭和四十四年であった。当時、新潟市内でも公民館の数は少なく、利用者も少数であった。

## 生涯教育における講師

小柳 和子

公民館に集る人達の年齢層は中広く、学習



ら全体の流れに沿うようにと配慮してきた。私の住む地区(新潟市)には坂井輪地区公民館があり、現在一二六団体が利用しており、その八十%が実技

を伴う学習である。ここでは「利用者団体役員必携」が作成され、これにのっとってサークル活動が運営されている。これらのサークルの結成方法を分類してみると、①公民館の

意欲の面でもそれまでの学校の集団とはかなり違っていた。マニアルなしの指導であるから、参加者のニーズに即した内容。進歩に応じた個人指導、新人に対しては工夫をしながら

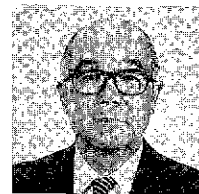
このうち②の場合の講師の中にややもすると私塾的な感覚で公的な場を使用していないだろうか。私の関わったサークル活動で、講師から謝礼が少ないからと指導を拒まれたことがある。

主催事業の参加者が講座終了後、引き続き活動するもの。②何人か集まり講師共々に利用するもの。③同じ学習目標を持った人が集まり独自に学習するもの

カルチャーセンターとは違う公教育の場の講師は自らその立場を考え、生涯学習に取り組む人達に適した指導、姿勢はどうあるべきかを考えていくことが大切だと思う。(公民館講師)

# 環境問題との取り組みを

高橋 敬三郎



先日朝日新聞で「世界中でカエル急減」といった大きな見出し

私達をとりまく自然は、土と水と大気と生物から成りたっているが、野山の土も川と湖と海の水も、陸や海の生物も、いたみ、汚れ、苦しんでいる、現況の中で生態系がくずれ去るうとする中で、山を削り、海を埋めたて、森林を伐採して、人間だけが他の生物を犠牲にして、便利さ、快適さを追い続けることはやがて、自らを苦しめることになるわけだ。

# ひろば

そうした事態を深刻に受け止めて、すでに破壊した自然環境の修復。環境保全浄化をどうするかの問題に早急に取組む必要が痛感される。

新潟県は、春夏秋冬、四季の移り変りの美しい郷土であるが、ジワジワと開発に名をかりた環境破壊によって生態系が、くずれてゆきさまが身辺に迫っている。公民館の各種講座や諸行事に、こうした問題を更に大きく取り上げて対処することをあらためて提案したい。(六日町公民館 運営審議会議長)

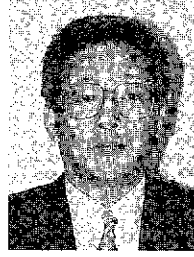
執筆者紹介

新潟市中央公民館(本連合会長)

細川 正博 氏

平成四年四月新潟市中央公民館長として赴任したばかりの方

務の経歴をお持ちで、情報化に対応する公民館の経営には最適な館長。その新感覚で、当県公連の活性化にも力量発揮が期待されている。



細川 氏

集会分科会報告  
館の運営  
公民館の管理運営を考える

一、はじめに

北九州市尾倉地区公民館は、敷地面積二千五百平方メートル、二階建。

職員は、館長、事業団から派遣された社会教育主事二名と嘱託二名の五名。

教育文化事業団が管理、公民館事業費として年一〇〇万円が配当され、水道光熱費など管理的経費は事業団が負担している。

管内人口一万三千人余、約五千二百世帯で年長者の多く住む閑静な住宅街である。かつて、北九州工業地帯の中心で鉄の都といわれたが、製鉄業の合理化により溶鉱炉が取り壊され、跡地にスペースワールドが整備されている。

二、公民館長のプロフィール

平成二年、伊熊館長が就任した。しばらく、なりを潜めていたが「公民館のサバイバル時代」といわれている中で、危機感が募り、マンネリ化した公民館がいかにリニューアルするか模索していた。

そしてまず、尾倉公民館の管理運営について基本理念をつくることから始めた。

「住民の豊かで、生き生きとした新しいライフスタイルを提案する地域の生涯学習センター

を目指す」という攻めの理念を打ちあげた。その実現のために「独創的で新規性」の高い管理運営をしたいと主張した。

伊熊館長は、情熱を傾け地域住民に粘り強く食い込んでいったらしい。

当の館長は淡々として語っていたが、鋭い洞察力と実行力に裏打ちされた様相が同調者を増



(この分科会も超満員の盛況)

していったに違いない。

一人の信念を持った男が公民館を大きく変えた。伊熊館長はまさにそういう人物だろう。議論だけで終わりがちな公民館職員の数少ない中で、具体的に目標を設定してその実現のために進めていったことはすばらしい一言に尽きる。

三、ハード面の特色

おシャレ感覚のまちなかのサロン、おヤジ族をひきつけたおもしろい講座、与えられた条件の中で知恵を絞り、工夫をこらした魅力的な館(やかた)になっている尾倉公民館の具体的な取り組みはどうなっているのか。

ハード面では、無味乾燥とまではいかないにしてもお役所的な館内を、緑あふれるやすらぎと潤いのある空間に作りかえたことである。それも、わずか十数万円の予算と地域住民の協力のもとで成し遂げたことは驚きである。

百万円メートルのロビーに喫茶コーナー「ラウンジおぐら」を置き、コーヒーやジュースを提供、もちろんセルフサービスで料金は実費五十円。

色和紙を使った大壁画(約畳七枚程度)をかけ、壁面を利用して石庭(0.2x5m)を設置。緋毛せんを敷き金や茶筌など

茶道具を展示、壺や置物など利用者作品も置いてしっとりとした伝統美を演出。一方観葉植物を豊富に配置、さらに、館内にバックグラウンドミュージックを流すなどいろいろと工夫がこらされている。生涯学習に関する資料などを備え、自由に利用できるように

展示するともにも図書コーナー(蔵書二千冊余)もある。

テレビやオーディオセットは再生品を使用している。

ロビーだけではない。和室の入口などに坪庭を配置(六ヶ所)している。半畳程度の床を半円形の瓦で囲み、白い石を敷き蓋宗竹を数本天井まで立てて、獅子脅しとかそれ相応の植木鉢を配置して調和をはかっている。

さらに、各部屋に愛称を付けている。「第一和室」としていたものを、地域にゆかりの深い地名、新潟県で言えば「妙高」と称している。

トイレも男性用は「写楽」女性性は「歌麿」の浮世絵をデザインしてカットングシートで作って表示してある。

敷地内には、「ふれあい花壇」と「万葉花壇」があり、いづれも利用者の協力のもとに作られており、館内にふんだんに飾られている草花はそこからの産物らしい。

ロビーの窓外に枯山水も設置されている。職員と地域の協力者で作ったもので、観葉植物や坪庭の材料など、大部分が地域住民から提供されたものである。

まさに、公民館として「独創性」と新規制」を実現したといえる。

# 全国公民館研究 都市公民 住民のニーズに応える都市

## 四、ソフト面の特色

ソフト面でのユニークな事業として「男の倶楽部」を企画して多くの成人男子を公民館に呼び込んだことにある。

キャッチフレーズが「もっと男らしく、したたかに」というもので、ちなみに、女性専科「女の倶楽部」は「もっと女らしくしなやかに」である。推測するに、家庭での実権は、したたかな女が握っている、地域もやはり一家庭や地域社会で男の復権を意図したものであるまいか。「男の倶楽部」を始めるにあたって、多少の懸念があったと

いう。公民館の生き残りをかけて、敢然と実施したに違いない。プログラムを組むにあたっては「一流の講師陣」を念頭において各界で活躍しているトップにねらいをつけたという。特にサラリーマンにとって、發刺と現場のトップとして活躍している人の話は、おもしろく活力が得られる。自分の生き方や仕事のうえに大変参考になることを経験的に知っている。ターゲットを絞り基本戦略を「一流の講師陣による講座」としたねらいがすばらしい。

参加したおヤジ族の大半が、カルチャーセンターへ出掛けてまで受講する気持ちはないが、チラシを見て「おもしろそうだし、自分にもできそうだし」ということから応募したとのこと。

会場の設定も、6、8名ごとにテーブルを設置して、白布をかけていた。教室スタイルの会場に慣れた目から見て新鮮な感じを受けた。そこには受講生同士の活発な会話が交わされていることだろう。

「男の倶楽部」は地元マスコミに大きく取り上げられ、いままさら引くに引けない状況に追いやられている。このことは館長や公民館職員に「もっと男らしく、したたかに」前進すること義務づけた。ここまで計算に

入っているとは凄いなものだ。

公民館職員の要件としては、キャリアは不要、情熱と知性と行動力があればよい、学習プログラムは明確で具体的な目標を設定、感動と共感が得られる「高品質」を追求すべきだと伊熊館長は主張する、公民館が現代社会の化石と

ならないために、悩みの種は、100以上もある植木鉢の水やり」とぼつんと漏らしていた。

尾倉公民館の取り組みはずばらしいの一言に尽きる。

## 五、むすび

充実した人生をおくるために 男の原点を徹底研究

優雅な時間を過ごす 平成3年度「秋の講座」のご案内 男の倶楽部

項目	回	月日	講座内容	講師 (敬称略)	項目	回	月日	講座内容	講師 (敬称略)
男の人生	1	5/10	「恋愛・結婚・離婚」	講師 児嶋 かよ子	男の海	8	6/28	● 舞の心	英 (はなまき) 流家元 英 聖 彦
	2	5/17	「恋愛・結婚・離婚」	生活デザイン研究所 所長 川部 千雄枝		9	7/5	● 日本のお茶 ● 高茶 (理論)	竜白 煥吾 三郎 兼 代表取締役
男の文学	3	5/24	「政治の文豪」	権太女学塾大学 学長 佐藤 敬 正	10	7/12	「実技」	北 角 恭 彦	
	4	5/31	「探偵の巨人」	現代俳句協会 幹事 穴 井 太	11	7/19	8ミリビデオ入門 (理論)	シーエ株式会社 シンジロウのム 天 江 洋 二	
男の音	5	6/7	「一目研修協会10年のあゆみ」	研北九州国際研修協会 理事長 本 野 謙	12	7/26	「実技」		
	6	6/14	「心身ともにたけなす」	元・新日本製鉄総研ラジコ一部 監督 森 重 孝	13	8/2	「気まぐれ安」海外旅行」	JTB日本交通公社北九州店 海外旅行課長 平 沢 晃	
7	6/21	● SUCCESS サクセス (成功哲学)	小・ライオンクラブ・アソシエイト 平塚 浩 定 十 里 和 子	14	8/10	「男の国際化」 シンジロウのム 会場 民芸公議場	スズキナビワ館長 スチュワーデスOB 上 村 純 子		

1 開催日：毎週金曜日5/10、8/10、最終14回の入会曜日

2 開 始 時間：午後7時～9時 (午後1時～4時)

3 場 所：北九州市立尾倉公民館 (最終回のみ長楽会館)

4 定 員：50人 (先着)

5 料 金：無料 (ただし、教材・材料費は自己負担)

6 備 考：※11、12回目のビデオカメラは公民館で準備します。

お申し込み：6月9日(木)まで、講師、尾倉公民館まで受け付けます。

電話でお申し込み下さい。(住所、氏名、年齢、電話番号)

お問い合わせ先：〒805 北九州市八幡東区尾倉 1丁目15番2号 北九州市立 尾倉公民館 PHONR 661-0516

人生を熱く生きたい！ そんなあなたに ぜひおすすめします。

●平成3年度「秋の講座」は、男性専科「男の倶楽部」と女性専科「女の倶楽部」をテーマで開催の予定です。ご期待下さい。

20-40歳代の方、大歓迎



# 下越公民館役員研修会

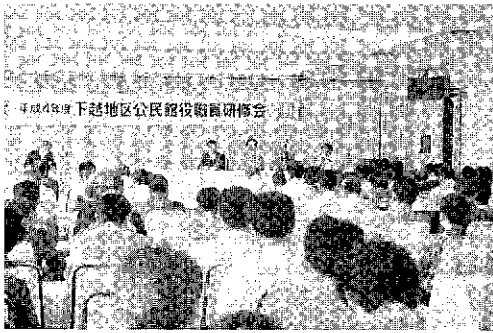
## 当面の問題を追究

パネルディスカッションによる

去る九月八日(火)九日(水)の二日間にわたり下越公民館関係役員研修会が弥彦村ニュー弥彦観光ホテルを会場に開催された。主管の西蒲・燕公連関係者の運営で充実した研修がおこなわれた。

研修テーマは「学校週五日制・職域の週休二日制と生涯学習並びに公民館のかかわり方」という欲張ったものであったが、時節柄「学校週五日制と公民館」への意見が主流であった。形態はパネルディスカッションで、登壇者の意見とともに、フロアーから引きも切らぬ質問や意見が続出していった。とりわけ運営審議会委員の発言が多かったのが印象的であった。

村尾 家庭の教育力に過剰な幻想を抱くのは禁物。地域の教育力が決め手となる。そのための情報収集の機能を発揮することか？」を把握し、地域全体として



登壇者  
下越教育事務所社教課長  
司会 桑原昭二氏  
吉田町教育委員  
込山ケイ氏

村尾技研株式会社  
村尾建治氏

亀田西小学校長  
小関毅氏

水原町社会教育主事  
見原健司氏

て子供を育てるシステムは子供自身のリーダー・町内会・企業の社会参加などをとおしてつくる主役になる必要がある。

込山 地域と学校との関係を密にすること。そのため、PTAの活躍に期待する。近年のPTAの母親の活動は往年のそれとは様変わりして活発になってい

る。また、健全育成会などの地域ボランティアの活動にも期待したい。

公民館は今後の余暇の増大によりますます多様な学習要求に応える学習機会の提供が必要になる。加えて学校週五日制への対応で指導者の確保やそのための人材バンクの確立、身障者への対応などなどの施策が必要となろう。

小関 今の子供たちは「指示待ち人間」が多く自分の考えを持たない。これを「自立・自律人間」にすることが教育力という

もの。留守家庭であっても、親が子供に予め「家庭での手伝い」を教えることもは留守をあずかることができる。

「地域」の具体的な仕事は、地域の自然や人間の資源など環境素材を教育素材としてとらえること。そして、それらの「資源マップ」を作ることであり、それを基にして「人材バンク」を作ることを提言する。

学校では「学校人材バンク」公民館には「公民館人材バンク」他の社会教育施設の「人材バンク」や企業の「人材バンク」などができ、これらのオンライン化がなされ、地域の人材活用を図ることが、これからの生涯学習の在り方であろう。

見原 「学校週五日制」は家庭や地域が教育の場として責任を持つために、地域社会を変えるカンフル剤だと受けとめている。「土曜日が休みになったら、公民館(社会教育)は何をしてくれるのか」という他人任せの考えでは困る。自分のこととして考えないで、行政に依存するやり方では子供自身の創造性も自立性も育たない。公民館は、趣味・娯楽の教室や講座を積極的に地域活動のためにグループ化することが必要である。そして、地域づくりのリーダーやボランティアを擁護し活用することである。

●集落公民館が積極的に子供たちのための事業に取り組んでいる事例の発表がなされ、一つは、大人のサークルが指導者になって成功している事例、もう一つは、すでに三十年を越える実績のある、生活作文を書き続けている事例や、例えば僅かな時間でもいいから親と子の触れ合う時間をもち続けている集落の活動事例が紹介されていた。

とである。

◆フロアーからの質疑と意見  
●「子供は家庭に帰すべき」というが、それぞれの事情があり受皿が必要。公民館もまた積極的受皿になるべき。

▲お説のとおり。ただし、数多くのメニューが用意され、子供自身で選択する、さらには、自分(たち)でやりたいものを工夫して作り出すための場を提供するといった考え方の受皿でありたい。

●家庭教育力を高める必要があるというが、これは、子供に対して直接対応する必要もあるが、むしろ親の教育が必要。よって、公民館は「家庭教育学級」の充実を力を入れる必要がある。また、公民館のみならず町内会や隣組等々にいたるまで子供を取り巻く問題に絶えざる工夫と研究を続けていくことが大切。

# サークル交流

## 飛翔への賛歌

### 鳥鳳に魅せられて

#### 豊栄鳥鳳の会

市民講座「鳥鳳教室」が会の前身である。

四苦八苦をして完成した鳥鳳「ヒシクイ」が、はじめて福島潟上空に舞い揚がった。一九八八年十月十日第二回福島潟鳥よせ祭の日であった。

飛翔する鳥鳳に魅せられたメンバーが自主活動を続け現在に至っている。今は会員十四名、週一回(夜)の活動である。

「鳥鳳」講師後藤脩平氏(新潟市山の下町)の創作した本物そっくりの鳳の名前である。

柳・竹ヒゴ・バルサ・ヒノキ・和紙などが素材となる。図面を見ながら飛翔する鳥をイメージして取りかかる。部品つくりから、胴体、翼の骨組み・下絵・染色・紙はりなどと、辛苦であるが楽しい活動が続く、話もはずみ和気藹々の面々であるが作業は真剣である。

今までに、ヒシクイ・カモメ・コハクチョウ・トビ・ツルを揚げた。今年は、鳥鳳と連鳳の太空中での乱舞を夢見ている。十月



1991.10.10 第5回鳥よせ祭 福島干拓田で(豊栄鳥鳳の会のメンバー)

十日の鳳日和を願いつつ。

—— 豊栄鳥鳳の会

萩野 淳 記

本を読む楽しさ

—— 松浜文学同好会

宮沢賢治の「銀

河鉄道之夜」はじめて読んだときは、不思議な幻想の世界へどんどん引きずりこまれ、何かなんだかわからなかったのですが、実は賢治の深い信仰心、妹トシ



の死、四次元の世界への憧けい等々が根底にあるとわかれると、視点を交えて読むこともできずし、何度読んでもこれだけでよく理解できたとは言えない深い魅力があります。そんな楽しさを教えて下さっているのが講師の若月忠信先生です。

文学の会の自主グループは新潟市の公民館でもめずらしいことですが、会員は「文学について」等と大きさに考えずにざっくばらんな人達ばかりだから、七年、八年と続いているのだと思います。ちなみに先回は「たった一人の生涯」を読んでいたのですが、途中から「金子知事辞任について」それぞれ勝手なことを選び合っているうちに閉会となりました。これから本を読む楽しさを少しずつ重ねていきたいと思っています。

—— 新潟市松浜文学同好会

村山啓子 記

## 三和村公民館社会教育係主事

### 松岡 直 子さん(38歳)

わが職場のアイドルは、今春村長部局より転任して来た紅一点、なんといっても見目麗しい「直ちゃん」である。

芳紀二十歳。幼児教育、家庭教育、女性教育、図書のほか経理・庶務を担当。これまでとはまるっきり異なる職務であるが、われわれの鵜の目鷹の目も



彼女の困惑した顔を見たことがない。仕事に對する意

## 素顔拝見

### 松代町公民館主任

#### 市川 英 世氏(38歳)

七年前まで六年間公民館で活躍された後異動、今年四月に住民課より再度公民館主任として栄転。高い手腕をかわれてのことと史料される。担当は、家庭教育・婦人教育です。水を得た魚のごとくベテラン振りを発揮、日夜頑張っている。色白でしなやかな身体、どこにアルコールが入るのだらうか相当いけるようで延長戦も時々、又カラオケも素人離れ、付き合はよくいつでもOK。しかし、会費負けはしないので要注意。今、東頸城



郡公民館連絡協議会の事務局長として活躍中、仕事の早さは抜群、パツ／＼とすぐ片付ける反面出来ない判断すると絶対しない超真面目な一寸損をするタイプ、これには少し困る。本人は悠々自適顔、心の優しさも強さをもつ青年である。町では生涯学習基本計画作成中です。中核になる市川主任の今後の活躍が大いに期待される。

—— 松代町公民館

佐藤公男 記

欲、快活さは天賦のものか。時間外勤務が多くハードな職場だけに直ちゃんの明るさにみんなが救われる思いである。

さわやかな表情と雨切れの良い声は、電話や来館者の応接等、窓口業務が多い当館にはまさに適役だし、情報無線の放送にもひと役買われている。

公営結婚の挙式の司会は目下独身の彼女のお勧め。人さんの挙式の世話も大事だが、直ちゃんからは、一口も早く結婚していただきたいと思っている。

—— 三和村公民館長 折笠敏和 記

# 調査結果報告書

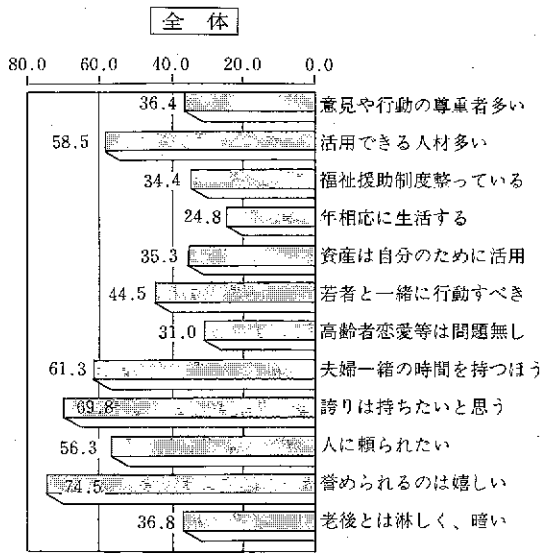
## 高年齢者の生活と意識



県長寿社会振興財団から、このほど「高年齢者の生活と意識に関する調査結果報告書」の恵贈を得た。A4版一九一頁の大冊である。調査は今年三月に実施

したもので、県内31市町村の五歳から七九歳までの高年齢者の中から無作為に抽出し、男女四千人を対象にしたものである。

調査内容は、現在の就労状況や家庭環境、家計などの実態調



査に始まり、生活面の満足度、健康状態・日常の役割、生きが

い、余暇活動などなど16項目にわたり調査されている。また、調査分析は、男女性別はもちろん年代による層別変化、都市郡部による地域別などに分類してきめ細かな検討を加えており、実に興味深い。

内容の一部を紹介しよう。

1. この一年間に使用した施設(説明は報告書原文のまま)性別で見ると、男性では「公民館」(三

性では「デパート」(二六・五%)が最も多く、「お寺・神社」(三二・七%)、「公民館」(二九・九%)、「健康ランド等の施設」(二六・三%)、「ホテル」(二二・三%)と続いている。

2. 「高齢者」の態度や意見

上表を参照されたい。活用できる人材が多い「誇りは持ちたいと思う」「人に頼られたい」「誉められるのは嬉しい」などの%が高いことから、高齢者への対

### まちからまちへ

市町村の隠れた名所紹介のコーナーです。

【栄町の巻】田園豊かな栄町に残された数多くの史跡の中から、東山寺を訪ねて見よう。

信越本線帯織駅で下車、駅裏から美田地を南東へ30分行くと鎌倉時代末の名僧隆蘭溪禅師の創建と伝えられる古刹曹洞宗(禅宗)東山寺に着く。天文三年(一五三四)創建といわれている赤松の木陰に建つ古びた朱塗りの山門。その山門の左右には南北朝鮮時代の作と推定の町指定文化財の全長235cmの五彩色の四軀の四天王像が安置(損傷激しく現在修理に出されている)また境内裏手には山を背景とした室町風回遊式庭園



(栄町公民館長補記)

### あとがき

◆文化祭シーズンたけなわ。各地の公民館で、公民館祭りの展示・発表活動の活発なのが目に見えるようです。

発表作品は一年間の学習成果の集大成でしょうが、準備作業のために動きまわっている、団体やサークルの人々の活動は、これまた、日ごろの自主運営・自主活動の成果。公民館のあり方が手にとるように分かります。

◆全国公民館研究会に編集子も参加。高齢者部会の司会を引き受けたところまではよかったが、出席者の多くは九州人のため、方言が難解なのは弱りました。「ワケツチのOB」若いうちのOBといつたぐあい。発言の活発なことばかり望んでいたのに、とんだところに伏兵が。

(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 細川 正博

編集人 事務局 上村 捨二郎

【定価1部130円 年共1,560円】